



TITLE:

第1回健康科学研究会 (健康科学イベント)

AUTHOR(S):

十一, 元三

CITATION:

十一, 元三. 第1回健康科学研究会 (健康科学イベント). 京都大学医学部
保健学科紀要: 健康科学 2006, 2: 79-79

ISSUE DATE:

2006-03-31

URL:

<https://doi.org/10.14989/39581>

RIGHT:

健康科学イベント

第1回健康科学研究会

本会担当 十 一 元 三

(作業療法学専攻)

平成16年12月10日に第1回の健康人間学研究会が開催されましたが、本学科教官を中心に約30名もの方々に参加いただく盛会となりました。はじめに、本会の企画および実施にあたり、ご協力頂いた皆様方に感謝申し上げます。

本研究会は、講演を通じた教官相互の情報交換・交流と研究活性化を目指して本学付属医療短期大学時代から100回以上におよび継続してきた研究会を引き継ぐ形でスタートしました。間近にせまる大学院化を視野に、健康科学研究会への名称変更とともに、“専攻横断的研究の促進”を目的の1つに掲げました。そこで、なるべく広い領域に適用性のあるテーマを取り上げることに致しました。また、講演形式のみならず、出来る限り双方向的、体験的な内容を目指しました。さらに、今後の多施設共同研究および産学連携を念頭に、本会の門戸を学外関係者に広げるよう致しました。

以上のような基本方針のもとに企画された第1回目は、「心拍測定を用いた簡便な自律神経機能の測定法」をテーマとする2部構成での実施となりました。第1部は本会テーマについて企画者である筆者が小講演を行い、第2部の前半では、長年にわたり京都大学の電気生理学的研究をサポートされてきた日本サンテック株

式会社の金子秀樹氏より、自律神経機能の測定機器と解析ソフトに関する説明と、測定のデモを行って頂きました。続く後半は、参加者が実際に機器を操作しながら自由に情報交換する場としました。

第1部の小講演では、自律神経機能の評価法について展望し、心拍解析にもとづく方法論をやや詳しく述べた後、その臨床応用について紹介しました。第2部では、はじめに金子氏から機器の特徴や測定の留意事項の説明があり、続くデモでは参加者を被験者として実測が行われました。その結果、最近の簡便化した計測システムを用いると、保健学科のどの専攻科における臨床研究にも容易に応用できるという感触を得ることができたように思います。実際、第2部後半では、殆どの参加から機器を取り巻いての活発な質疑応答があり、大変賑やかな交流会となりました。

本年度に入り、第1回研究会で紹介された機器を活用した研究計画が本学科で複数進行していると聞いております。このことは、先に述べた健康科学研究会の狙いが、現在の当学科の方向性とニーズに合致していることを示しているのではないかと思います。同様の方針のもと、今年度も有意義な健康科学研究会を企画してまいりたいと存じます。多数のご参加をお待ちしております。